

平成30年2月発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70

静岡県総合社会福祉会館内

TEL. 054-653-2311 FAX. 054-653-2312

E-mail:sizurosi@vesta.ocn.ne.jp

<http://www.shizu-roshikyo.jp/>

# しづ老施協

## 卷頭言

### 静岡県老人福祉施設協議会への希望と期待



静岡県社会福祉士会  
会長  
山本たつ子

平成30年を迎えるにあたって、平成29年を振り返ってみると、何とも慌ただしい1年であったと感じます。社会福祉法の改正に伴う取り組み、監査法人の導入や事業運営の透明性の構築や組織体制強化、地域における公益的な取り組みへの検討等々時間をかけて準備をしてきたつもりではありますが、その他懸念材料が山積されている状況下において、次年度報酬改定の議論に憂慮されている方も多いでしょう。今期の報酬改定は、診療報酬、介護保険報酬、障害福祉サービス報酬等の改定が一度に議論されております。これまで年次がずれて改定されておりましたので、業種内での議論に留まっていたと感じます。しかし、今回の同時改定の中で、少なくとも福祉分野における改定では整合性を図ってもらいたいと感ずるものがいくつかあります。特に最も強く感ずるのが、職員への処遇向上給付金の問題です。種別によって取り扱いが異なり、また給付対象職種も異なります。特に経営上、介護分野への給付は有難いのですが、施設現場は様々な職員チームで業務が遂行されております。何とか同一スタンスが図れないものかと感じます。

また我が事・丸ごと共生社会の構築で謳われているように、地域での生活を支える社会福祉を目指して行くためには、高齢や障害という枠組みでなく、地域で自立した暮らしを支える視点を持った社会福祉法人であることが期待されます。サービス提供を軸に捉えて、地域資源として社会福祉法人がその機能を果たしていくことが重要かと感じております。最も大きな問題はそれを取り組む人材の育成と確保であると感じますが、その担い手として社会福祉士が存在すると考えております。

静岡県社会福祉士会は、平成5年8月に静岡県ソーシャルワーカー協会内に社会福祉士連絡会を発足し、平成5年1月の日本社会福祉士会設立を受けて、平成5年5月静岡県社会福祉士会を設立、平成20年には一般社団法人として新たなスタートを切り、平成28年度末の会員数は、1,343人と年々増加しております。

当会の目的は「社会福祉援助を必要とする静岡県民の生活と権利を擁護し、社会福祉に関する知識及び技術の県民への普及・啓発を行うとともに、社会福祉事業に携わる専門職員に対する技能の研鑽を行うことにより、地域福祉サービスの推進と発展を図り、もって静岡県民の社会福祉の向上に寄与すること」と謳っております。

社会福祉士会会員の多くは、様々な種別の異なる組織に所属しながら会の目的達成のために尽力しております。様々な分野で働く社会福祉士が社会福祉全般の共通課題を見つめ、幅広い視点で物事を捉えることの出来る社会福祉士の育成を進めて行きたいと考えております。特に地域との関わりを進めるために専門的に取り組むことのできる社会福祉士の役割機能は重要であると感じております。

しかし人材の育成は、職能団体だけが果たせるものではなく、静岡県老人福祉施設協議会を始め、多くの社会福祉事業者団体と社会福祉士他の専門職能団体、また社会福祉養成校との連携を密に図り、時代が求める人材を育成し、次世代に向かっての新たな展望が開けて行ければと考えます。常日頃よりの静岡県老人福祉施設協議会の御尽力に敬意を表するとともに、益々のご発展を期待し、また今後とも静岡県社会福祉士会へのご支援・ご指導賜りますよう、お願い申し上げます。(社会福祉法人天竜厚生会 理事長)

## 特集1

## 介護記録電子化について

企画経営委員会委員長 大塚 芳正



今年度、企画経営委員会では「介護記録の電子化」の調査・研究について取り組んでおります。平成30年度介護報酬改定で予想されるICTによる生産性の向上に対応するためです。

また、生産性の向上により利用者への関わる時間が増え、QOLの向上や職員の負担を軽減させることも目的であることは言うまでもありません。

取組の内容は次の4本です。

- ①介護記録ソフト導入に関するアンケートの実施  
(9月～11月)
- ②介護記録ソフト見学研修会の開催（導入会員施設での研修会）(9月28日～10月5日)
- ③介護記録ソフトの比較検討の説明研修会の開催  
(12月14日)
- ④介護記録ソフト活用研修会の開催（2月9日予定）

今回の研修は会長の提案から決定したテーマですが、全体として評判がよく、タイミングとしても適切であったと自負しております。

①のアンケートは同朋大学教授の下山久之先生に分析をお願いしており、④の介護記録ソフト活用研修会に合わせてその分析結果を紹介する形となっています。後日アンケート結果を送付いたします。

②の介護記録ソフト見学研修会はソフト導入済みの16施設に研修開催を依頼し、結果として14施設で実施することができました。全体の参加者は96名でしたが、一回の研修会で3～17名と少数であり、密度の大変濃い研修となりました。老施協としてこのような分散研修会は初めての経験でしたが、現実的に利用している実態を学び、大変良い評価を得た研修となりました。

③の介護記録ソフトの比較検討の説明研修会は62名の参加者となりました。介護作業の入力にパソコンやタブレットなどの携帯端末を使用する方式や音声入力



見学研修会 浜松市 さぎの宮寮にて

など、簡便で効率的な点が4業者それぞれの特徴としても競い合うものがあり、注目を集めました。この種の研修会についても老施協では経験がなく、参加者数の見通しが立たなかったのですが、まずはまずの成果が得られました。



ソフト説明研修会 県総合社会福祉会館

企画経営委員会としては、今後とも、社会の変化に応じた会員にとって有意義となる活動を行っていきたいと考えます。

(特別養護老人ホームなどの杜施設長)

## 特集2

# 特別養護老人ホーム待機状況調査結果について

特養委員会委員長 青野容幸



今年度9月に特養における待機者の状況について調査を行いました。会員の皆様には大変お忙しい中ご協力をいただきありがとうございました。

従来型118施設、ユニット型92施設、計210施設から回答をいただきました。今回の調査結果について報告いたします。

今回の調査の目的は、平成27年4月の制度改革で特養の入所が原則要介護3以上になったことにより待機者の人数が減少してきていると思われるため、各施設において待機者の状況をどう捉え、どのような対応をとられているかを調査し、県との懇談会に活用することでした。

調査の結果ですが、待機者全体の状況についてみてみると、「少ない」59.5%・「ほとんどいない」14.8%と回答した施設が74.3%を占めており、8割近くの施設で待機者が少なくなっていると感じているとの結果でした。そのうち14.8%の施設で「ほとんどいない」と回答しています。しかしながら25.7%の施設では「十分いる」と回答しており施設によって格差が大きくなっています。

東・中・西の地区別にみてみると、待機者が「ほとんどいない」と回答した施設は、東部が8.6%・中部が13.3%・西部が21.3%と各地区によって待機者のいない状況は大きく異なっています。また「十分いる」と回答した施設は、東部が24.3%・中部が31.7%・西部が22.5%となっており、待機者が「ほとんどいない」が2割強の西部地区であっても「十分いる」が2割強あり、各地区の中でも各市町において格差が大きくなっていることがわかります。この傾向は、要介護3以上の待機者においても同じ状況であり、各市町(各保険者)によって待機者が多いところと、ほとんどないところがあり、待機者の状況は、市町によって大きく異なっている回答結果が出ています。

次に、今後の推移に対する回答結果ですが、「増加すると思う」と回答した施設は、4.3%とわずかであり、

「少しずつ少なくなっていくと思う」55.2%・「危機的な状況になっていくと思う」21.2%と回答した施設は、76.4%であった。ほとんどの施設が減っていくを感じており、危機的な状況になっていくと思っている施設が2割強ありました。

今回の調査結果で、待機者の状況は各保険者ごとに大きく異なることがより明らかになったと思います。施設整備を含めて各市町の特養が協力して保険者と話をしていくことが必要だと思います。また危機的状況になっていくと感じている施設も少なくないので、これまで以上に各特養が協力し、情報交換をし、会員が一丸となって制度へ働きかけていく必要があると思います。特養委員会としても会員皆様にとって有意義な調査研究を行っていきたいと思いますので、これからもご協力をお願いします。

(特別養護老人ホームおおすか苑施設長)

県全体 合計 (平成29年9月)

区分	地区名	東部地区	中部地区	西部地区	県全体
待機者全体	十分いる	17 (24.3%)	19 (31.7%)	18 (22.5%)	54 (25.7%)
	少ない	47 (67.1%)	33 (55.0%)	45 (56.3%)	125 (59.5%)
	ほとんどいない	6 (8.6%)	8 (13.3%)	17 (21.3%)	31 (14.8%)
	回答数	70	60	80	210 (100%)
要介護3以上	十分いる	14	19	12	45 (21.5%)
	少ない	47	34	47	128 (61.3%)
	ほとんどいない	8	7	21	36 (17.2%)
	回答数	69	60	80	209 (100%)
今後待機者の推移	増加	4	2	3	9 (4.3%)
	現状維持	15	10	16	41 (19.3%)
	少しずつ少なく	42	36	39	117 (55.2%)
	危機的な状況	11	12	22	45 (21.2%)
	回答数	72	60	80	212 (100%)

## 新人職員紹介

どうぞよろしくお願ひします

### 富岳一ノ瀬荘

(裾野市)

- ① 橋本智恵子（介護員）
- ② 前から欲しかった洋服が貰えた事。
- ③ 松岡 充
- ④ 海外旅行、残りは貯金。
- ⑤ 職員間の連携が取れて事故の無い施設です。
- ⑥ 自分のスキルを上げるためにこの施設なら勉強になると思って選びました。



### 高原荘

(富士宮市)

- ① 清水寿梨（介護職）
- ② 入浴介助時、利用者様に「あんた洗い方が上手だよ」と言わされたこと。
- ③ 増田貴久（NEWS）
- ④ 大きな家を建てて、おばあちゃんと一緒に住みたい。
- ⑤ 職員・利用者様が笑顔でいられる施設。
- ⑥ 実習に来た際に働く職員さんにひかれて。



### 静岡老人ホーム

(静岡市)

- ① 柴田直樹（支援員）
- ② 利用者様から指名され、頼まれることが増えた事です。利用者様と距離が縮まってきたのだと嬉しく感じています。
- ③ 好きなタレント：大泉洋 スポーツ選手：イチロー
- ④ 実家はもう築50年ほどになるので、実家を建て直したいです。
- ⑤ 職員間同士の連携を深め、チーム一丸となって利用者様を支援できるような職場にしたいです。
- ⑥ 社会福祉実習で介護職員が、利用者様一人一人と真摯に向き合い、丁寧に支援する姿を見たことです。



### いなさ愛光園

(浜松市)

- ① 中山双葉（介護職員）
- ② 欲しかったコートを見つけて貰えた事。
- ③ 土屋太鳳、佐藤あり紗
- ④ 家族で旅行に行く。洋服や化粧品をたくさん買う。
- ⑤ 笑顔が絶えず、ご利用者の方が安心できる施設。
- ⑥ 職場見学の際にご利用の方と笑顔で接しられている職員さんを見て「私もこここの職員さんみたいな介護職員になりたい」と思ったから。



### みどりの風・おかべ

(藤枝市)

- ① 寺田靖子（介護職）
- ② 予供達だけで夕飯を協力して作ってくれたこと。
- ③ 志村けんさん
- ④ 家族で世界一周旅行をしたいです。
- ⑤ ご利用者様が安心して穏やかに過ごせる場所。
- ⑥ ご利用者様と職員が笑顔でゆっくりとお話しされている姿を見て、その空気感がとても良くて決めました。



### きじの里

(浜松市)

- ① 清川真帆（管理栄養士）
- ② 螢っ子（1歳）のできることがどんどん増えていること
- ③ 菅田将暉・高畑充希
- ④ 家を建てる・ディズニークルーズラインへ行く
- ⑤ 利用者にとって楽しみや心に残るような食事を提供する施設にしたい
- ⑥ 0歳の園児～100歳の高齢者という幅広い年代の方の食事に携わりたいと思ったから



各施設の新人職員にお聞きしました。

- Q ① 氏名・職種 ② 最近あったうれしいことは  
 ④ もし宝くじで1億円当ったら何に使いますか  
 ⑥ 施設を選んだきっかけや決め手は何ですか
- ③ 好きなタレント、スポーツ選手  
 ⑤ 今後どんな施設（職場）にしていきたいですか



# 静岡県老施協西部支部の活動紹介

## 園芸体験講座（西部支部開催）を受けて

養護老人ホーム奥山老人ホーム施設長 峰 野 政 博

利用者皆様の生活にうるおいを提供しようと、会員施設の皆さんも日夜思慮していることだと思います。

今回、昨年に引き続き静岡県の事業として県下東・中・西各施設において「園芸体験講座」が開催されることとなり、本年の西部支部は当奥山老人ホームとなりました。

この園芸体験講座は花き園芸に実際に触れたり体験することで、高齢者の皆さんのが心にうるおい・やりがい等を持っていただけるよう実施している事業とのことであり、支部長推薦により行っております。

当日は、静岡県農芸振興課よりお2人の担当者と浜松市内3店のフラワーショップの皆さんにより、14名の参加者にフラワーアレンジメントの指導がありました。



最初に静岡県担当者の方から趣旨説明があった後、講師の方3名によりご指導いただきました。花材はほとんどが地元浜松産の花との事で、全国有数の花き生産地である浜松市を改めて実感いたしました。準備された花材は、バラ、ガーベラ、菊、スプレー菊、ストック、カーネーション等々数種類の花が用意され、その全ての花を使ってアレンジメントを体験させていただきました。

参加された方々もほとんどの方は初めての体験とあって最初は緊張されていましたが、3名の講師の



方々が根気よく丁寧にご指導くださり、1本の花の茎を切りすぎたり途中で折れたり失敗を繰り返すうち、見る見るうちに笑顔が見えるようになりました。

終始参加者の方々が真剣に取り組む中、完成したバスケットに盛られた、自分でアレンジした花を自慢げに捧げている姿が印象に残りました。

参加者のアンケートでも、「楽しかった。」「またやってみたい。」との感想が多く聞かれました。

今後も県下3か所で毎年開催が計画されるようすで、会員施設の皆さんも是非体験講座の受講をお勧めいたします。原材料費、講師料は全て主催者の静岡県の負担により行っています。

ご利用者の皆様の笑顔がご覧いただけます。



# 研修委員会の活動計画について

「研修に関するアンケート」結果から今後の活動を考える

研修委員会委員長 原木 豊



研修委員会では、平成28年度に実施した研修に関するアンケートの結果、最も多かった「コミュニケーション」をテーマに、研修を企画・実施してきました。

結果として対利用者・家族・職員間・苦情対応等様々な場面における当事者の関係性を踏まえ、トラブル対処時における対話や連携について、効果的、実践的な手法など理解を深めることができました。

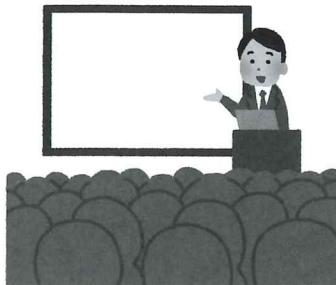
会場についても「中部地区だけでなく、東部・西部でも会場設定をしてほしい」との意見を頂き、昨年度から東部会場・西部会場での研修も実施いたしました。

## 来年度の研修計画に向けて

これまでの取り組みに対する評価と、会員の皆様が今後求める研修テーマを伺うため、昨年10月に再度アンケートのご協力を頂きました。

研修会場を東・中・西部に設定したことについては、「参加しやすくなった」との評価が51%だった反面、29%の方が「会場について工夫していることを知らなかった」と回答されており、今後は会場設定についても事前に広報する工夫が必要であると感じました。

また、アンケートの回収が低調だったことから会員の皆様が老施協の研修に対する期待や関心が薄い現状が窺えました。更に「研修に参加しない理由」については47%の方が「人員配置や勤務状況から研修に出られない」と回答されたことから、今後は数多くの研修を企画するのではなく、テーマを絞って開催する必要があると感じています。



## 来年度の研修テーマ

今回のアンケートで「人材確保と人材育成」に関する内容が最も希望が多かったことから、来年度は「人材育成」をテーマに、入職4~5年目のスタッフ向けの「スーパービジョンとコーチング」に関する内容を東・中・西部で会場設定して企画する考えです。グループディスカッションも交え、施設間の交流を図りながら実施したいと思います。

また、若手職員を対象とした「接遇マナー研修会」や施設運営・管理の課題である介護保険制度改革、人材確保対策等を中心に「施設長研修」を計画させて頂く予定です。

なお、恒例となっている「介護力向上研修～研究発表Again～」についても第10回高齢者福祉研究大会の優秀賞を学習素材として行います。

これらの年間研修計画の公表と早めの研修案内を行うことで会員の皆様が計画的に参加し易くすることと併せて、他機関の企画する研修についても会員施設に紹介する機会を設けたいと思います。

今後、事業計画については老施協内の事業推進検討会議における調整を経て、役員会・総会で決定し、個別研修をお知らせしますので、来年度は各研修会に多くの参加が可能なようご配慮をお願いします。

(みどりの風・おかべ 施設長)



グループ討議の発表  
29.11.20開催 中部会場研修会（もくせい会館）

## 平成29年度老施協活動報告

★印は予定

### 【老施協】

★29年10月24日

静岡県福祉長寿局職員との懇談 静岡県教育会館  
副知事、健康福祉部長へ要望活動

★29年11月22日 事業推進検討会議

委員会のあり方（広報委員会新設等）について

★29年12月7日 第3回理事会

平成30年3月任期満了に伴う役員及び委員の改選、委員会組織の改正について

☆30年2月14日 事業推進検討会議30年度計画

☆30年3月9日 第4回理事会

役員及び委員の支部推薦状況、新役員の選任案、新委員の決定

☆30年3月20日 第5回理事会

現役員、新役員（予定者）の顔合わせ、定例総会運営進行の確認

☆30年3月20日 第2回総会

役員の選任（次期会長の選任）、平成30年度事業計画（案）、一般会計収支予算（案）について

### 【企画経営委員会】

★29年9月28日～10月5日 介護記録ソフト導入事業所見学研修

★29年10月12日 第4回委員会

県福祉長寿局職員との懇談内容、機関紙編集組織

★29年12月14日 第5回委員会

理事会の状況報告、30年度事業計画について

★29年12月14日 業者による介護記録ソフト説明研修会

☆30年2月9日 介護記録ソフト研修会（AOI）

### 【研修委員会】

★29年11月2日 第4回委員会

平成30年度活動計画、ガイドライン策定案

★29年11月20日

「職員間のコミュニケーション向上で働き易い職場づくり」研修会 静岡県総合研修所もくせい会館  
＊講師 日本女子大学教授 久田則夫氏

★30年1月16日 第5回委員会

30年度活動計画について

### 【21世紀委員会】

★29年10月16日 第4回委員会

★29年11月17日 SHIZUOKAミーティング

★29年12月7日 介護の魅力倍増セミナー  
県立短期大学部 講演及びシンポジウム

★30年1月24日 第5回委員会

★30年2月3日 介護の魅力倍増セミナー  
浜松中央長上苑 講演及びシンポジウム

☆30年3月14日 第6回委員会

### 【高齢者福祉研究大会実行委員会】

★29年11月1日 第4回委員会

第9回研究大会開催状況、アンケート結果

★30年1月31日 第5回委員会

第10回大会開催要綱、募集要綱の決定

### 【特養委員会】

★30年1月29日 第2回委員会

### 【軽費委員会】

☆30年2月16日 総会、研修会

### 【在宅委員会】

★30年1月26日 第3回委員会

委員会名称、組織の改正について

## 編集後記

先日職員研修の一環としてファイナンシャルプランナーを講師に招き研修会を行いました。自分の老後や将来は国や会社が支えてくれるのではなく、自分で守ることを考えて下さいと言われました。介護保険制度も創設当初は社会全体で介護を支える制度として始まりましたが、その制度も少しずつ個々の責任が増えてきたように感じるこの頃です。（堀内）

海岸線に近い特養は、地震による津波の不安が近隣住民と同じようにある。少しでも近隣住民の皆様の不安を減らしたいとの思いから津波避難階段を屋外に設置した。今では、住民が屋上に避難されると同時に、施設の利用者の避難を支援するという「共助」の防災訓練の取組ができるようになつた。先進事例として全国に紹介されただけに、いざ本番というとき訓練のようにできてほしい。（奥川）

社会派ドラマや企業をテーマにした番組、報道からは、多くのことを学ぶことができます。フィクション・ノンフィクションの区別は当然必要ですが、この業界しか知らない私にとって、「他から学ぶ」意味では、新鮮かつ有用な研修機会になっています。ドラマのように事が進むことは、まずありませんが。（溝口）

## “より良い介護を目指して”

～静岡県との懇談会と副知事・健康福祉部長への要望活動～

### 静岡県との懇談会

平成29年10月24日（火）に静岡県教育会館において、静岡県との懇談会を開催。この懇談会は、静岡県福祉長寿局と静岡県老人福祉施設協議会との意見交換の場として、従来から実施されているものであり、静岡県当局と老施協が忌憚のない意見や情報交換ができる貴重な機会となっている。

#### 【今回の参加者】

静岡県から高橋福祉長寿局長ほか担当課長等の7名、老施協から石川会長をはじめとする副会長及び各委員長等の19名、総勢26名。

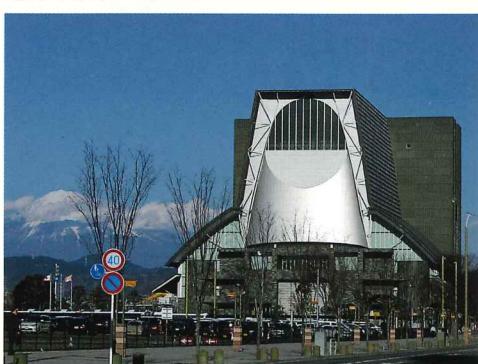
#### 【意見要望項目】

老施協の各委員会から提出された意見要望を企画経営委員会がとりまとめ、提出した主要な項目は次のとおり。

- I 介護人材の確保・養成と介護職の社会的評価向上に向けた取り組みについて
- II 防災、防犯対策の充実・強化について
- III 施設の修繕、建替え経費の補助について
- IV 特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホームの運営について
- V 介護予防・日常生活支援総合事業における緩和基準Aの取り扱いについて

### 第10回静岡県高齢者福祉研究大会 開催日程・会場

期 日 平成30年8月20日（月）  
 会 場 グランシップ（静岡市）  
 内 容 講演会、研究発表72題  
 参加予定者 1,000人



静岡県教育会館にて

### 正副会長の活動

また、同日、正副会長は懇談会と同様の要望書を吉林副知事と山口健康福祉部長に提出し、意見交換を行いました。



県庁内副知事室にて

### 第55回関東ブロック老人福祉施設研究総会 開催日程・会場

期 日 平成31年9月26日（木）～27日（金）  
 会 場 アクトシティ浜松（浜松市）  
 内 容 基調講演、記念講演、研究発表  
 参加予定者 1,200人

